

令和2年7月31日

報道機関 各位

長崎県内病院における医師の両立支援状況調査

病院経営者のワークライフバランス施策に対する認識は7→9割
年々向上する一方で、取り組みの負担感は5割を超える

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター（以下センター）は、「医師の両立支援状況調査」を2013年より毎年実施し、医療におけるワークライフバランスの取組事例等を県内病院に啓発・推奨してきました。

今年度は6月に実施。対象となる県内149病院中、111病院から有効回答を得て結果を発表しました。

「医師の働き方改革」として、2024年4月より時間外労働の上限規制というメスが入ることに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響や女性活躍推進法など、従来の働き方を見直さざるを得ない状況になっています。育児や介護等のために時間制約があっても就労が継続できる環境整備や、日本全体の課題でもある男性の育児参加を促進できるよう、センターは県内病院へ継続して働きかけます。

【医師の両立支援状況調査】

■ 公開URL：<http://nagasaki-ajisai.jp/activity-reports/15535>

■ 公開日：2020年7月20日

※「病院経営者・管理者のワークライフバランス施策に対する認識」では、2013年、2015年、2020年の経年推移を示しています。

【調査トピックス】

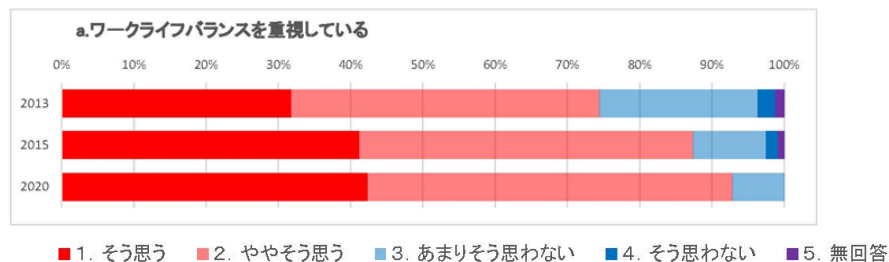
- ① 9割を超える病院経営者・管理者が、ワークライフバランス施策に対して意欲的。一方、デメリットとして「病院にとって負担が大きい」と感じる病院は半数以上。仕組みづくりのための実務・労力や、長崎県特有の離島等での人材不足に伴う経済的な負担が主な原因と見られ、依然として解決されていない（図1）
- ② 県内病院の両立支援制度や施設の導入状況は低調なまま（図2）
- ③ 「新型コロナウイルス感染症をきっかけに、従来の働き方やワークライフバランスの改善をより一層取り組む必要があるか」の設問では「そう思う」と回答した割合は25%、「ややそう思う」が52%。合計77%の病院が働き方やワークライフバランス改善に拍車をかける必要性を感じている
- ④ 県内8医療圏すべての病院に、女性医師および子育て中の女性医師が勤務しているが、94%が3医療圏（長崎、県央、佐世保・県北）に集中。
- ⑤ 2019年度に育児休業制度を利用した男性医師は、長崎大学病院の2名

医師の両立支援状況調査-ワークライフバランス施策に対する認識の経年推移

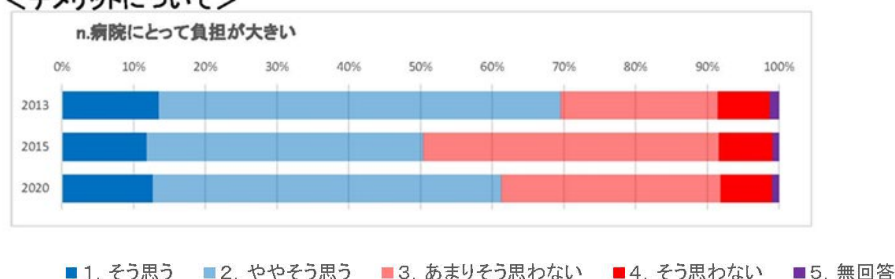
図 1

	調査対象 病院	回答 病院	回答 率
2013年度	156	82	53%
2015年度	155	119	77%
2020年度	149	111	74%

<基本的スタンス・姿勢について>

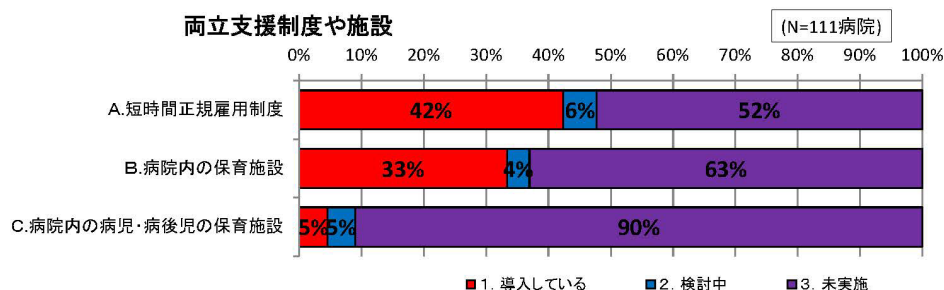


<デメリットについて>



2020年度医師の両立支援状況調査報告-149病院 <抜粋>

図 2



若い医師が多く勤務する 16 の臨床研修病院のうち、主な両立支援策の導入状況は、短時間正規雇用制度あり 9 病院、病院内の保育施設あり 13 病院、病院内の病児・病後児保育施設あり 4 病院で、働きやすい環境の整備は、まだ十分とは言えません。

【仕事と生活の両立を図りながら活躍するドクターを応援します】

センターは、長崎県全域を対象に医師が仕事と生活の両立を実現するための支援とその環境整備を推進する「あじさいプロジェクト」を展開し、取組の一環である「長崎医師保育サポートシステム」に注力しています。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

電話&FAX 095-819-7979

メール: info01@nagasaki-ajisai.jp

あじさいプロジェクトWebサイト: <http://nagasaki-ajisai.jp>

長崎医師保育サポートシステム: <http://nagasaki-ajisai.jp/ryoritsu-support/hoiku>